

## 令和4年度 (一社) 犬山祭保存会理事会 第4回 議事録

### ●日時

令和4年11月19日(土) 19:00～20:30

### ●場所

IMASEN 犬山からくりミュージアム玉屋庄兵衛工房 2F

### ●出席者(敬称略)

【常任理事】会長(石田)、会長代行(多和田)、副会長(澤野、長谷川、大澤、小林)、伝統文化委員長(市橋)、伝統文化副委員長(長井)、てこ委員長(浅野)、てこ副委員長(吉田成伸、陸浦)、企画広報委員長(松田)、企画広報委員長代行(斉木治郎)、企画広報副委員長(柴田)、からくり文化振興部長(加藤)、専務理事(溝口)

【理事】枝町組理事(武藤)、魚屋町組理事(小川)、下本町組理事(松岡)、中本町組理事(栗谷)、熊野町組理事(浅野)、本町組理事(安田)、練屋町組理事(小島)、鍛冶屋町理事(市橋)、名栗町組理事(森)、寺内町理事(三輪)、余坂組理事(藤澤)、外町組理事(伊藤)、内田町組理事(若山)、坂下大本町(中村)

【企画広報委員】斉木美加、前田、吉田昌司、杉山

【犬山市】歴史まちづくり課(市野主査)、観光課(小池課長、小林主事補)

【その他】保存会事務員(竹村)

### ●議事

I. ①会長挨拶 ②報告事項

II. 議題

- ①. 秋の犬山城下町祭の総括
- ②. 来年度に向けての問題点
- ③. その他

## ●配布資料

- ① 東海三県の祭保存団体によるネットワークづくりについての記事
- ② 次年度犬山祭協賛金趣意書（素案）
- ③ 明石花火大会事故調査報告書（抜粋）
- ④ アンケート調査結果
- ⑤ てこ委員会報告書
- ⑥ 年末の交通安全県民運動行事への参加依頼

## ●議事内容

### I.

#### ① 会長挨拶

・会長： コロナ禍がなかなか完全収束しない状況ではあるが、その中で我々としては絶えず議論をしていきたいと思う。先日、ある方にヒントをいただいた。まちづくりの市民運動をやっておられる方で、「まちづくり」と一字置きにかいて、「まつり」と読み、祭は最高のまちづくりである、とおっしゃって祭をそのように評価していただいていた。最近では城下町にたくさんの方、若い方や女性が来ていただいている。こういったことも我々としては関係ないことでなく、城下町をどう作っていくか、全体のまちづくりをどうしていくか、北地区だけでなく犬山全体に連関関係をしていくかということ、保存会活動として情報を集めたり、保存会の議論としていくことが大事だと思う。

先日てこ委員会をやってもらい、私も参加して、先日の秋まつりの意見も聞いた。てこの皆さんから、もっと積極的にやってほしい、もっと自分たちに任せて欲しい、といった刺激的な意見も聞いた。私たちとしては、若い人たちに意見が通るような保存会を作っていきたいと思っている。

大垣の神戸町の教育委員会でお話をしてきたが、そこで、どこの祭も継承と改革、再生、変化といったものを同時に考えるべきではないか、と言う提唱をしてきた。伊勢神宮の式年遷宮に学ぶことがある。あれは内宮を二十年に一度替える。莫大な金額をかけて新品の神殿を立てる。その技術や職人の技は1000年以上前から変わらないが、運営する人は20年毎に世代交代する。それが伊勢神宮の不死鳥のよ

うな力である。人間が二十年に一度、親子ほどの世代で変わるということである。保存会の大事な事も若者に、次の世代に受け継いでいくということである。過去・現在・未来という長い時間軸の中で祭保存会を企画運営していかなければならない。先日てこさん方の意見を聞いていて、若い世代の意見が保存会の流れを変えていく、という組織にしていかなければならないと会長として思った。皆様のご理解とご意見をいただきながら、保存会の運営を絶えず、継承と改革という方向でいくべきではないかということを感じた。

## ② 報告事項

- ・専務理事：第10回日本の祭シンポジウムの報告書を配布したので、読んでいただきたい。
- ・会長：テーマは「保存から活用へ」である。これは文化庁がものすごく大きく舵を切っている。単に文化財を修理して保存するだけではない。仏像や巻物や古いお寺は修理しているが、祭こそ人の集まりであるので、文化庁の「保存から活用へ」の典型である。今文化庁は、文化財の活用を、祭を使ってお願いをしようとしている。まちづくりの改革を、祭を使っていくということを文化庁が話しており、そういった議論をしている。

朝日新聞からのインタビュー記事について。神社というのは、隣の繋がりが無い。日本文化の典型であり、生け花、能、歌舞伎も家である。祭もそういった縦社会の典型であり横の繋がりが全くなかった。そこで、ユネスコの無形文化遺産登録を通して、横のネットワークを作ろうと提案した。無形文化遺産は全体で33あるが、愛知岐阜三重の三県で11ある。そこでネットワークを作り、まちづくりの意見交換をしたり、祭をやるだけでなく観光について話す。日本全体の自治体の流れが観光になっている。犬山はもともとが観光都市である。岐阜の高山も外国人が多く来る。大垣も観光に熱心である。そういった場所を集めて新しい日本のまちづくりをやろうということで朝日新聞からも注目していただいております、今後これをやっていきたいと思っている。

- ・伝統文化委員長：11月18日に楽田小学校でからくり体験を玉屋庄兵衛さん含め7名で行ってきた。こちらから三番叟等のからくり人形を持っていき、生徒さんに体験していただいた。座敷からくりの弓曳童子なども間近に見ていただいて喜ばれていた。生徒さんからは、からくりを見てびっくりした、犬山祭が楽しみです等の声

があり、非常に喜んでいただけた。からくり体験は毎年二校回っているが毎回楽しんでいただけている。

- ・企画広報委員長：例年、年末に御餅を奉納しているので、それについて広報委員会で企画を練っている。奉納は28日に行う予定。今年は土曜日曜の日程がないため、コロナの状況を見て皆さんで集まって餅をつくことを企画したい。年明けの土曜か日曜に設定したい。日程については煮詰まり次第報告させて頂く予定。

## II. 議題

### ① 秋の犬山城下町祭の総括

- ・会長代行：秋の犬山城下町祭の総括ということで、各理事からご意見をいただきたい。
- ・外町：土曜日にからくり実演をやらせていただいた。実演の時に糸が切れてしまい時間通りできない状態となったが、皆さん集まって頂き上手くやれたと思う。
- ・寺内町：土曜の車山の運行、日曜のからくりと、二日間ともやって良かったと思っている。
- ・中本町：どんでん館の中で設置してある階段のところで見ていただき、場所としては狭かったが、上の方から覗いてみていただけて良かったのではないかと思う。すぐ近くでお囃子もできて、お客さんが喜んでいただけて良かったと思う。
- ・名栗町：日曜にどんでん館の車山でからくりをした。からくりは照明を当てて見ていただいたが、やっている側は中山が真っ暗で紐が分からず、LEDのライトを持ってなんとか行った。
- ・余坂：皆さん喜んでいただけたが、中山のからくりのペロ出し人形の右手が取れてしまった。原因として、撤収の時に落ちたが、前からヒビが入ってお

り、抜いた時に取れたものと思う。責任者として真摯に受け止めて考えたいと思う。

・練屋町：からくりは指示通り行った。それに伴い飾り車山を行った。幕の披露もあったが町内の方にはご協力をいただいた。

・本町：久しぶりのからくりだったが、若衆が前日に集まってくれて練習をするということで覗きに行ったが、一生懸命に太鼓や笛をやってくれていた、この子たちが将来本町を支えてくれるのかなという気持ちで見ている。当日天気も良く、差金も修理したばかりだったが逆立ちも上手くいき、演技は問題なく終わった。来年春もなんとか頑張れたらと思う。

・下本町：日曜日にはからくりをやらせていただいた。午前中から練習を5回ほど行い、当日本番を迎えたが、上手くいかずに見ていて恥ずかしかったというのが感想である。からくりを行うメンバーに、もっと練習をするように指導をした。

・枝町：日曜日にはからくりをやり、途中で紐が切れるといったトラブルがあったがなんとかうまくいき、多くの方に見ていただき、天気も良かったので良かったと思う。

・魚屋町：日曜日にからくりと車山組みをさせていただいた。一週間前から仮設台を作り練習を5日間ほどやったので、当日はスムーズに行き、車山組みも、時間はかかったが一つ一つ検証しながら構築することができたので良かったと思う。11月5日に吉野山金峯山寺でからくり奉納に行った。現地で二回ほどからくり奉納をさせていただいた。一番良かったのは、貫主がこちらのからくりをご覧になってとても驚かれて、終わった後に中の構造も興味深く見ていただけ、お褒めのお言葉もいただけた。

・内田：内田は車山も無く、防災訓練と重なってしまったので参加できなかった。

- ・熊野町：土曜は車山を出し、日曜は熊野神社の境内でからくりをやらせていただいた。場所が広く、大変多くのお客様に見ていただけた。
- ・鍛冶屋町：からくりの練習もやるということで、10月の初めに三日間ほど練習した。当日はスムーズに予定通り進行した。事前にはからくりの練習をしていただく必要があるのではないか、ということを経験的に感じた。例えばからくりの操りの際に糸が切れた等のトラブルについて点検が必要と思うので、事前に練習をしていただけるとありがたいと改めて感じた。
- ・会長代行：スケジュールとしては、いつもと違う時間帯で行ったが、スムーズに行ったと思ったが、何か問題点等があったらご意見をお願いしたい。
- ・鍛冶屋町：先程もお話したように、当日だけでなく事前に練習を通していただければありがたいと思う。また、外町さんが、からくりの際にお客さんの訪問がしにくい時間帯と場所でご迷惑をおかけしたので、来年は各町内がスムーズにからくりを見ていただけるスケジュールにしたい。
- ・熊野町：次の町内への移動にもう少し時間があってもいいのでは。演目が終わるとすぐにお客さんが移動して人がいなくなってしまうので、残された側としては寂しいものがある。
- ・伝統文化副委員長：今回、外町さんの所には行けなかったが、ほとんどの場所を回らせていただいたが、皆さんのお話の中でもあったように、例年と違うやり方であったこともあり、スケジュールが非常にタイトで、実際の指定された時間以外にからくりをやっていただけた町内さんもかなりあり、それも考えると、すべてをスケジュール通りに順番に並べてやっていく必要はないのではないかと思う。例えば一日で13町内やるのなら、一日二回やるのを前提にして、移動時間を長くして、同時に二カ所でやる等すれば、全て見るというお客さんも全て見るができるし、実際には全て見る方というのはほとんどいないので、一カ所でやっているというよりも、常にどこかで二回やっていて、通りかかった人が見られるという雰囲気にした方が、ここは

お祭をやっているまちなのだなと分かっていただけなのではと思う。次回から順番にやっていくという方法以外にもあるのではと思う。

また今回、特に糸が切れた町内さんが多かった。これはコロナが影響したのか分からないが、通常このようなトラブルは多くないので、普段の練習が少ないのではないかと思う。他の町内の練習も見せていただいたが、若い人たちも参加してきているし、輪が広がっていけば良いのではと感じた。

- ・からくり文化振興部長：中学校は久しぶりの外での演技で、参加人数も多く、次世代育成事業ともコラボしており、外に出していただいて正解だったと思う。からくり館内だと人数的に問題があるので、外で良かったと思う。出来としてもまあまあ頑張ってくれたと思う。

高校はからくり館でやらせていただいた。市の方にご協力いただき無料入館ということでやらせていただいたので、人の出入りも多く良かった。高校は修学旅行の次の日だったので来られない生徒もいたが、振興部で補って無事に終わった。

11月4日にテレビで7時半から生放送があり、高校生が撮影に参加し、無事に終わった。

一番心配していたのは、中学生がほとんどが三年生で、一年生・二年生が8名しか残らなかった。高校生でも、後継者の人数が少ないので、中高生で興味があるような子がいたら勧めて下さると嬉しい。

からくりの糸が切れた時に見に行っていたが、からくりの人形が動かなかった時はお囃子を前面にやっていただけのはいかがでしょうか。よろしくお願ひしたい。道具の不備等があったらお手伝いさせていただく。

- ・会長代行：来年に向けてまた良い企画案を作っていただけるような方向で調整してやっていきたい。

当日の車山の運行について。

- ・寺内町：土曜日に、町内の方で有志という形でやらせていただいて、てこと下山で片付けまでやってみろという形でやらせていただいたが、運行については、やって良かったというのが本音である。しかし、最後まで片付けをするのは、やはり町内の人になるので、そこも考えていかなければならないと思った。車山の運行は、時間がタイトだったので、余裕をもってできればいいと思った。
- ・余坂：やはり一番大事なのは、けが人もなく事故もなくやれたということが良かった。自町内の事情で昼までしかやれなかった所以他町内さんにはご迷惑をおかけした。
- ・熊野町：長老の方が増えてきているので、準備の段階から次世代交代をさせるつもりで、本来は当番が用意するが、今回は当番にただ座って見ていると指示して、片付けも含めて全部でこの皆さんにやっていただいた。当番はただ見張り役ということで監視していた。若い人に色々なことを覚えていただくというのが第一であり、春もそのような形になると思う。事故もなく時間内に収まったので、署長と地域課の課長も来て頂いており、このようにゆっくりしか動いていません、と説明して納得していただいた。
- ・観光課長：二日とも天気が良くて良かった。今回は車山の運行は自主事業でやられるということで市もサポートしながら行った。準備の中で、チラシの折り込みや、警備の打合せ、交通規制のバリケードの準備、微力ながら我々も一緒に行ったが、自分達の祭りを盛り上げてやっていく、継承していくというところから始まったと思うが、準備段階から若い世代の方が頑張っておられて、次世代に将来を任せていくという意味で良い経験となったのではないかと思う。今後もこういった若い方がやっていくという思いを大事にしていただけたらと思いながら見ていた。

からくり町巡りについては、間近にからくりを見られるということでお客様も喜んでみえたし、プログラムや進め方についてまたご検討いただければと



思う。普段の犬山祭とは違う祭の良さを見ていただく良い機会になったと思う。お疲れ様でした。

- ・専務理事：秋まつりの一週間ほど前に挙母で死亡事故が起きた。挙母の会長から事故の状況を聞いたが、これはかなり気を付けないと犬山でも同じことが起こりうるということを実感した。今回は三町内の車山運行ということで、てこ委員長を通してしっかり通達した。来年も事故のないようにということで、肝要なのは、転倒した時に、気が付いた誰かが、「止めろ」、「ストップ」と声をかけずそのまま行くと事故につながるということである。てこ委員会を通じて、来年の本祭でも13町内に注意喚起していただきたい。
- ・会長：犬山の中学や高校のからくり振興部は全国的に有名である。犬山高校は、かつては日本一になったこともある。また、玉屋庄兵衛という方を頭に入れておいていただきたい。かつて、玉屋氏を犬山に呼ぼうという市民運動をやって、工房を作って、玉屋氏を犬山の顔にしようと思ってやってきた存在である。玉屋氏に会われて感激する人も全国にいる。玉屋氏を広告塔のような存在としていてくださっているの、声もかけていただきたい。

今仙さんの協力も得難いものである。余坂の今仙研究所からからくり町巡りが始まるのもイメージが良くて、今仙さんもとても協力的で、からくりの文化に対して応援して下さっている。

- ・寺内町：車山の上山のお札について、見えるか見えていないかという話。青幕がついている時は外に出してあるので、前面のお札は見えない。熊野町は幕が4本柱より奥にあるので、柱のお札が丸見えである。二輦並んだ時にお札が見えていない状態で、どうにかならないかという話になった。ずっと何百年と同じ形でやってきたものではあるが、幕が中に掛かっている町内は13町内のうち2輦であり、幕が外にあるためお札が見えていない町内がほとんどである。幕が外に掛かっている町内も2、3町内あるが、ほとんどは見えていない。幕がかかっているのは朝だけである。お札は本来

どのような状態であるものなのか分からないが、町会長は直さなければならぬのでは、と言っているが、個人的にはいまさら直すのはどうなのかとも思う。もしも直すという話であれば、外に巻いてある他の町内も直さなければならぬということになり、それで済めばと思うが、四本柱いっばいに幕が張られており、昔から町内は外側を囲んでいるのでそれが良いのではないかと個人的には思う。

- ・ 伝統文化委員長：今のお話について。各町内から神社に行くときに、下山の赤幕は垂らしていくし、本来子供達も金襦袢ではなく、中に隠していく。

からくりが終わって下山の幕を上げて金襦袢が見えるようにするし、そういう考え方でいけば、見えないのが本来の形なのかも知れないが、神社へ向かってからくりを納めて、それから表にするという考え方も良いのではないか。

- ・ 暗幕は別名注連縄幕であり、幕自体に注連縄の絵が描いてあるものもある。からくりを奉納するまで守る結界であり、どちらが正しいのか分からないが、車山自体に札が張ってあっても、車山を守っているということになると思う。どちらが正しいかは町内さんのお考えであると思う。

- ・ 熊野町：自町内では幕をかける位置が内側にあるので、外に出すのは難しい。

- ・ 会長代行：確認はするが、現状維持ということで良いのではないかと思う。

- ・ 会長：こういう話をするのも良いと思う。針綱神社のお札が見えるのが当たり前ではないかということも言われた。神道には教義がなく、正解は無いかもしれないので、課題として受け取らせていただく。

### ③その他

- ・専務理事：来年のお祭の趣意書について。今の時点では協賛金を集めようと考えている。来月下旬には商工会議所に趣意書を持って行くので、これを印刷する必要があるため、事務局として叩き台としての資料を作ったが、内容やコースについてご意見があったら事務局に教えていただきたい。

また、2年前に協賛金を出した人、協賛金の約束はしたがまだ出していない人については、問い合わせただければ分かるようにしている。お気づきの点があったら事務局に教えていただきたい。

明石の花火大会の事故調査報告書について。韓国の事故もあったが、祭関係者は車山を曳く人も含めて人が排除されたところを通っているので気が付いていない方もいるが、数年前、犬山祭でも身動きが取れずに二人失神者が出たこともあった。こういった事を加味してどのような運行計画を作るかについて、まずはてこ委員会の方でも素案を作っていたいただきたい。町内の意見を先に聞いた場合、こういった現場の状況を見無視した意見が出かねないので、その点を十分に注意して立案していただきたい。

- ・てこ委員長：よく考えて作成する。コロナ禍前には、試楽の夜に13輦揃えて城前から出すという計画も考えていたが、3年やっておらず大変危険なので、従来通り二つに分けて行いたい。本楽は変更しようがないのでそのままだが、北組が二日間同じところを通らなければならないので、そこを考えた
- い。
- ・会長代行：協賛金について。委員会が毎回一人なので、負担が大きいと思う。
- ・副会長：協賛委員会は理事会の前に事前にやる。
- ・会長代行：皆様のご協力のもとで、例年以上の協賛金を頂けたら保存会の活動もしやすくなるのでご協力のほどよろしくお願ひしたい。色々なところ

で支出が少しずつ増えることもあるかもしれないため、それも踏まえて協賛金をたくさん集めたいのでご協力をよろしくお願ひしたい。

- ・副会長：北小学校の150周年記念事業について、保存会で25万近く集まった。皆様方のご協ひに感謝申し上げます。
- ・副会長：草鞋を作っている白川の方で、90歳になる。その人が動けなくなったら草鞋が手に入らない。今からでも遅くないので、皆さんに草鞋作りを本腰を入れて考えていただきたい。そうでないと草鞋を履いて祭が出来なくなる。これに関しては秋の催事の前の若衆会議でも話をした。そんな状況のため、作る手立てはお教へできるし、わらもあるので、次年度から本格的にやれるのであれば、てこ委員会、伝統文化委員会も含めて、皆さんで作ることを考えていただきたい。ご協ひをお願いします。
- ・会長代行：前向きに検討していきたいと思うので、ご協ひをお願いします。
- ・会長：例えば鶴匠の方たちは、自分で草鞋を作れるので、観光協会の方でも具体案を考えてみてほしい。
- ・専務理事：コロナ禍前に愛知大学（当時立命館大学）の先生に聞き取り調査をしていただいたアンケートの結果を一部添付した。16町内全部で1274人、そのうち3町内をピックアップした。会費の千円をいただいたいる方の年齢構成について、平均して70%～80%は50代以下で構成されている。そのように若い世代で祭が執り行われているという実態である。

また、一か月ほど前のでこ委員会でも非常に前向きな意見が出た。各町内の事情もおありかと思うし、こちらから色々と言うのは好ましくないので、こちらのデータを見ていただき、またそれぞれ考えていただきたい。

12月1日に文化会館付近で交通安全について街頭キャンペーンが行われるのでよろしくお願ひしたい。

●次回日時

令和4年12月17日

●次回場所

からくり館2階

●記録日

令和4年12月3日

●記録者

竹村

●署名

石田芳弘

溝口正成